
「第16回福岡県美しいまちづくり賞」の受賞作品が決定しました！

【住宅の部】

大賞 SHIMA STYLE

建築主：田中 聡央
設計者：大石和彦建築アトリエ
施工者：(株)斎藤工務店
所在地：糸島郡志摩町大字桜井
竣工年月：平成15年3月



設計趣旨

敷地は糸島半島の海側に近い場所に位置している。建物はシンプルかつおおらかに自然とのつながりを持たせる意味で、機能的にパブリックとプライベートに分けられた2種類の高低差があるL字型フレーム屋根による組み合わせとし、屋根下の半屋外的空間の形成と開放性がコンセプトになっている。目の前に広がる自然に対し、フィルターをかけずにダイナミックな建築的構成によってストレートに表現した建物になっている。

講評

別荘地から常住地に変わりつつある糸島半島の一角に建つこの住宅は、モダンな外観とは裏腹に自然との大らかなつながりを持たせながら、屋内と半屋外空間との絶妙な協奏により内外部が相互貫入する開放的な空間構成を成し、風景を創り出すのは自然そのものではなく、そこに置かれた人工的な存在によってこそ規定されるものであることを実感させる。建物外観からもパブリック空間とプライベート空間との区別が明快であるように、内部の平面構成も手堅く、生活へのしっかりとした眼差しが感じられる。自らの住まいのイメージをあらかじめ用意していた施主とのコラボレーションとのことであるが、良き作者と良き施主の出会いこそが良き建物の源泉であることの良き証左となっている。

【一般建築の部】

大賞

渡辺クリニック姪浜

建築主：医療法人 愛育会

設計者：(株)松山建築設計室

施工者：(株)松村組九州支店

所在地：福岡市西区内浜

竣工年月：平成14年9月



設計趣旨

区画整理事業の一区にある産科・婦人科医院であり、周囲は急速に都市化が進行している。昼間の姿とは対照的に夜間は暗く平静としているこの場所で、安らぎや温かさを与えられる建築を実現したいという意図から外観のファサードが決定された。待合ホールは外部に開かれた空間になっており、クライアントとスタッフの努力によって心地よい空間が生み出されている。

講評

直線を強調したシンプルで力強くインパクトのある外観デザインおよび細かな配慮を行き届かせた落ち着いた内部空間のデザインは秀逸である。しかし、この作品の魅力はそのようなデザインの質の高さもさることながら、地域に密着した医療施設および都市に開かれた建築を目指し、作者、施主、そして病院のスタッフの協働により、それを空間として、またシステムとして実現したところにあるとよい。夜間、周辺が闇と化す中であってこの病院から漏れる明かりはさながら常夜燈のように辺りを照らし、道行く人に安らぎを与えるが、同じ眼差しを新しい命の誕生に向かい合う産婦に向けられていることを間違いなく確信させる医療施設である。

【まちなみ景観の部】

大賞
247

建築主：キタヤマコーポレーション(株)
設計者：(株)スピングラス・アーキテクト
施工者：(株)大林組九州支店
所在地：福岡市中央区大名
竣工年月：平成15年2月



設計趣旨

大名には城下町特有の、折れ曲がりながら続く道が今も残っている。戦前戦後の建物が混在し様々な店が並ぶおもしろさ。247ではこの道の佇まいを建築の中にも引き込んで立体的に構成し、時代の重なり合いが生む町の奥行きをさらに現代的に深めようと試みた。道から続く階段を上った場所に、光と風を導く吹抜けを配し、その周りを散策できるよう外部の共用部で取り囲んだ。道路側は統一した照明計画を行い、夜景にも配慮した。

講評

中高層が建ち並ぶ密集市街地において、風と光の道を確保すると共に、視線を奥に誘い、人間性を回復する手立てとして、建物の内部を縦横に抜く建築空間手法は有効である。立体路地をモチーフとするこのビルはまさにその典型を成すものとして秀逸であるが、かつての城下町時代に形成された不規則な街路や屈曲しながら奥へ奥へとつながる路地によって織りなされた町並みを再現し、ファサードのサッシ割にも不規則な路地割りを連想させるデザインを施すなど、歴史的に形成されたこの地の場所性を最大限に引き出し、かつ現代的に翻案した点においてこそ高い評価が与えられるべきである。雑然とした町並みに変貌しつつあるこの界限において今後の街並みデザインのより所となることが期待される。

【住宅の部】

優秀賞

K S HOUSE 2

建築主：木本 功次郎

設計者：木本 功次郎 + K's Gallery

施工者：建設業ヨシダ

所在地：嘉穂郡筑穂町大字平塚

竣工年月：平成14年10月



設計趣旨

敷地は高齢化の進んだ住宅街に位置しているが、近年交通手段の利便性から若年層世帯が増加しつつある。若い年齢層を対象としたこのアパートは、敷地中心に中庭を設け、アパート全体を中庭へオープンとすることで周辺との生活差異から生まれる騒音の問題を解決した。一方、地域に対して閉鎖的になるのを避けるため、中庭には外部につながるデッキや、さまざまな表情を見せる漆喰の塀を配し、コミュニティの形成を目指した。

講評

居住者に若者を想定したこの小さな集合住宅は、特有の生活時間と生活スタイルを持つ若者と周辺住民との間に生じる生活トラブルを避けるため、外に閉ざし、中に開くという手法を採用した。農村部に建つものでありながら、市街地にありがちな空間構成手法を敢えて採用したことで、周辺環境との断絶を強く感じさせる反面、当りに異彩を放ち、農村部における新しい景観を形作っている。中庭の造形もシンプルで心地よく、居住者の帰属感を促す手立てとして効果的な仕上がりとなっている。また、外部内部共に余計な仕上げは全く見あたらず、徹底したローコストを目指したことにも高い評価が与えられた。

【住宅の部】

優秀賞
東鳴水の住宅

建築主：井手 誠一郎

設計者：矢作昌生建築設計事務所

施工者：(株)安永組

所在地：北九州市八幡西区東鳴水

竣工年月：平成14年8月



設計趣旨

ご夫婦と4人のお子さんたちと最初にお会いしたとき、とても仲の良い家族という印象が残った。家族が分断されず、「ひとつ屋根の下」でお互いの気配を感じながら、家族を実感できる空間を目指した。各階は半階ずつずれながら、幅広の階段により全ての空間が連続的に繋がり、行き止まりがない。寝室は大きな「家族の間」をもうけ、簡易間仕切等で自由に間仕切る。この「立体平屋の家」で行われる鬼ごっこは、なかなか終わらない。

講評

スキップフロア形式により、各層に分かれた床面がリズミカルに連続するダイナミックな内部空間構成は、常に家族同士の気配を感じ、家族の一体化を図りたいとの居住者の思いを素直に可視化したものである。そこでは階段までも単なる通過空間を超えて連続する行為の場としてしつらえられ、窓面の外に内部の写像のように置かれるデッキおよび階段と相まって、内外空間に小気味よい変化を与えている。傾斜地でかつ有効な土地面が少ない敷地条件を逆手にとったこの流れる空間は、作者自らが題する立体平屋を見事に具現化したものでもあり、作者の居住者の生活への温かい眼差しがうかがえる。

【一般建築の部】

優秀賞

福岡・M - office

建築主：三ツ角 直正

設計者：グノーシス一級建築士事務所

施工者：(株)小串建設

所在地：福岡市中央区舞鶴

竣工年月：平成14年8月



設計趣旨

敷地は、大通りより1本入った静かなオフィス街にある。Private(クライアントの個人スペース)、common(スタッフ・ゲストスペース)、wing(建物全体を包む庇)の3つのボリュームは耐久性をそなえ、時代や流行にも左右されないコンクリート、ガラス、アルミで構成される。建築が持つゆっくりと持続するような時間の感覚を表現できればと考えた。また、建物を2分割するスリットは、路を歩き交う人に空や背景を提供する。

講評

弁護士事務所を主宰する所長、パートナー、一般職員の三者の執務スペースが必要に応じて適度に分割されながら、全体が機能的かつ有機的につながる内部空間構成は外部へもそれとなく表出し、コンクリートと不透明ガラスに覆われた建物でありながら、ある種の透明感を感じさせるものとなっている。外部の皮膜にはコンクリート、ガラス、アルミといった素材に限定されることにより現代的でプレーンな表情を見せる一方、垂直および水平方向に視線を奥に引き込み、かつ陰影を感じさせる心憎い造形を駆使し、雑然とした街並みの中であって、心地よいランドマークの役割を果たしている。

【一般建築の部】

財団法人福岡県建築住宅センター
理事長賞
中広川小学校

建築主：広川町長

設計者：那の津寿建築研究所
井上設計共同企業体

施工者：西松・西武・半田・小林建設工事共同体
西松建設(株)九州支店
半田建設(株)
西武建設(株)九州支店
(株)小林建設

所在地：広川町大字新代

竣工年月：平成14年8月



設計趣旨

「夢に満ちあふれる学舎」をコンセプトとした。校舎の中心に光が注ぐ多目的ホールを据え、各学年フロアの独立性と一体感、特別教室等への動線、地域開放施設のゾーニングをいかにまとめるかをテーマとした。ゆとりあるワークスペースやウッドテラス、円形屋外劇場等、児童が自然に集うしかけを各所に散りばめながら、雨水利用や太陽光発電等、エコスクールにも留意した。緩やかな円弧の外観は児童を優しく迎え入れる。

講評

文部科学省が推進するオープンスクールを目指した標準的な小学校である。しかし、限られた建設予算と面積に縛られながら、極めて堅実にプランニングが展開され、加えて内部の仕上げ材には木がふんだんに用いられるなど好感が持たれる作品である。何よりも作者が子供の目線に立って、各諸室の配置および内部空間の構成に腐心した形跡が認められ、ともすると特異な造形を求められがちな最近の小学校建築の中であって、その極めて良心的な設計姿勢は賞賛されるべきである。環境教育への配慮およびエコスクールへの指向もまた評価の対象となった。今後この小学校が地域のシンボルとして育つことを願いたい。

まちづくり貢献賞 犬鳴川みどりの会



設計趣旨

犬鳴川みどりの会は、平成7年10月から、宮田町の住民により「自分たちのまちは自分たちで作ろう」を合言葉として発足しました。町民にとってかけがえのない共有の財産であり、誇りである犬鳴川を守りながら、住民の意見が盛り込まれた犬鳴川河川公園を中心にしたまちづくりを推進し、この会のボランティアによって定期的な除草・清掃作業として芝刈りや除草・樹木の剪定、花壇の植え替えなど各種の活動を継続的に行っています。

優れた景観の保全と形成に対する熱意や努力は、ボランティアという立場を越えて、広く人々の共感と実戦を促す原動力となっております。
